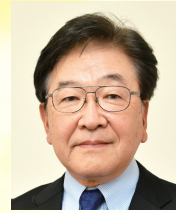


特別編集版の発行について

神奈川県私学保護者会連合会

会長 鴨下 博厚

(洗足学園中学高等学校 洗足会顧問)



本会の会報誌「私学保連News」は、毎年4月と10月の2回発行し、神奈川私学にお子様を通わせている全世帯にお届けしています。新型コロナウイルスによる感染症が拡大した2年前からは、多くの方にご参加いただく形

式での研修事業の開催が難しい事態となり、その代替として特別編集版を発行してまいりました。現在、感染者数は高止まりの状況にあり(11月上旬時点)、この先の推移も見通せないことから、今年も特別編集版を作成して、会員の皆様にお届けすることにいたしました。

この印刷物には、

1. 8月に開催した関東地区私学保護者会連合会連絡協議会での紺野美沙子様への講演抄録
2. ネットの危険からお子様を守るために保護者ができる3つのポイント

の2点のコンテンツと、11月28日に開催した神奈川私学振興大会について、報告・掲載しております。本会の活動は、まだまだ大きな制約を受けている状況ではありますが、コロナ禍で高まった私学への期待に応え、神奈川私学の一層の発展と、そこに学ぶ子どもたちの教育環境の充実を図るために、少しずつではありますが活動を再開しております。

11月9日にはアルカディア市ヶ谷にて、私学振興全国大会が開催され、役員数名で参加してまいりました。11月28日にはパシフィコ横浜にて、神奈川私学振興大会を3年ぶりに開催いたしました。それぞれ、国や県に対し、私学助成の一層の拡充を訴え

る機会となりましたことをご報告させていただきます。

今後も「私学保連News」では、この会が何を目的として、どんな活動を行っているのかをご報告してまいりますので、お手元に届きました際にはぜひ一読くださいますよう、お願い申し上げます。

最後に、2月21日(火)に神奈川私学会館で、3年ぶりの講演会を開催することにいたしました。「コロナ禍における子どもの不登校やいじめ問題、その心のケア(仮)」と題し、横浜鶴見リハビリテーション病院の吉田勝明先生にご講演をいただく予定です。各学校にご案内が届けました際には、積極的にご参加くださいますようお願いいたします。

関東地区保護連代表者会及び研修会に寄せて

一般財団法人

神奈川県私立中学高等学校協会

理事長 工藤 誠一

(聖光学院中学高等学校 理事長・校長)



私立学校は、独自の「建学の精神」に基づく個性豊かな教育を行う教育機関です。昨今の社会状況の変化によって、設立当初に掲げられた「建学の精神」が、社会のニーズに対応できていないのではないかと考える向きもあるようです。

私は「建学の精神」は不動なものであり、創始者の熱い理念は私学独自の組織文化を作り出したと考えています。時代のスピードに合わせるためとか、訴訟案件につながるトラブルがあったからといって、私学の理念を薄めて、ガバナンスを強化した方がよいと議論されることもあります。例えば、評議員、理事の中に全く学校関係者がいないという形にしてし

まう。大切なお子様を実際に預かっている現場の教職員不在で、学校が運営されてもいいものなのではないか。

現在の厳しい状況の中で、私立学校は、原点を再確認して、どのように独自性を繋いでいくかに力を傾注していかなければなりません。

東京都の小学校PTA協議会が、全国のPTA協議会から退会するというニュースをお聞き及びかと思ひます。会費の半分を納めるメリットがないというのが退会の理由です。

私学は、保護者の方に学校独自の教育理念に共鳴していただかなくてはなりません。保護者のご理解なくしては、私学は存続できないと言ってもよいかと思ひます。

今、私学の補助金、私学振興助成法、これは保護者の皆様の動きがあつて、そしてそれが議員立法によって私学振興助成法は昭和48年に制定され、49年から施行されています。また、最初の原案、地方教育行政法の中に、「知事は教委に対して私学の事務に関して指導・助言・援助を求むることができる」となっていました。当然のことながら、その中で私学の独自性というものは失われて行ってしまう部分がありました。それを保護者の皆様、そして中高連関係者、議員が一体となって戻し、「指導」ということを削りました。やはり政治の流れの中に絶えず私学というものも存在しています。

日本の私学の自由を守っていくためにも、我々私学関係者、そして保護者の皆様が一体となっていく必要があります。日本の将来のために、国が豊かであれば大変なことになります。やはり今の世界の状況を見ると国は絶えず豊かであればなりません。そして、その中で未来を担う子どもたちが育っていく。この環境を維持していくために、そしてその先駆者は私学で育つ若者だということを目指して、保護者の皆様とこれからも共に頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくご協力をたまわりますようお願いいたします。

関東地区私立小・中・高等学校保護者会連合会 連絡協議会代表者会及び研修会神奈川大会

2022年8月26日（金）関東地区私立小・中・高等学校保護者会連合会連絡協議会代表者会及び研修会が横浜口イタルパークホテルで3年ぶりに開催されました。コロナの感染状況が心配される中、関東6県から約60名の参加がありました。

代表者会は、開催県を代表して鴨下博厚会長と関東地区私立小・中・高等学校保護者会連合会連絡協議会の村岡博幸（茨城県）会長の挨拶から始まりました。来賓として、日本私立小学校中学校高等学校保護者連合会の門傳英慈会長、神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課の山中毅課長、神奈川県私立中学高等学校協会の工藤誠一理事長（1ページ参照）の3名を迎え、それぞれ挨拶をいただきました。

その後、村岡会長を議長に次の内容の協議と報告をしました。

（一）協議題及び各県活動報告について

（二）次期開催県について（5年度 埼玉県）

各県の報告から、私学保護者会連合会の活動も少しずつ通常の活動、元の活動に戻っていることが実感できました。アフターコロナ、ウィズコロナの視点で実施方法について今後も一層様々な工夫が必要だと思えます。

次期開催県の埼玉県私立小学校中学校高等学校保護者会連合会の國分忠義会長より挨拶があり閉会となりました。

その後、研修会が行われました。

代表者会及び研修会のすべてが終了後、懇親会も和気藹々とした雰囲気の中で行われました。



研修会

『心に響く言葉を伝えよう』

紺野 美沙子様

皆様こんにちは。今日は関東地区の私立の小中高等学校の保護者の皆様方に、少しでも先輩の立場で話をさせていただきます。

私は、神奈川県私立、聖セシリア幼稚園、そのあとにカリタス小学校、中学校と進みました。息子も神奈川県私立にお世話になりました。そのご縁から、毎年夏に神奈川県の私立の新任の先生方の研修会で、講師として長年お招き頂いています。

今日は皆様に言葉について、言葉の大切さ、そして言葉の伝える力についてお話ししようと思います。

皆様の記憶に新しいところで、夏の全国高校野球甲子園大会で優勝した仙台育英高校の監督が「青春って、すごく密なので。」とおっしゃいましたよね。あの言葉で「ぐっ！」ときた方も多いと思います。言葉の力は大きいものだなと監督の言葉を聞いて思いました。

◆最近私の好きな言葉

二つあります。ひとつはコロナ禍で、「この先どうなっちゃうのかな」漠とした不安に襲われたときに、思い出す言葉です。

新美南吉の「でんでんむしのかなしみ」。その絵本の最後に悲しみを殺いっばいかかえているでんでんむしが、いろいろなでんでんむしを訪ねて行って、目覚めるシーンがあります。その時の言葉「悲しみは誰でももっているのだ。私ばかりではないのだ。私は私の悲しみをこらえていかなければならない。」これは、私ばかりではない。みな同じなんだよということ、自分に言い聞かせることで、ちょっと元気になる言葉です。

そしてもうひとつ、「今日が一番若い日」です。数年前にベストセラーになったシスター渡辺和子さんの『置かれ



た場所に咲きなさい』の中の言葉です。「今日が一番若い日」と思うと何となく前向きになれるような気がします。年齢をあまり気にすることなく、背中がピツと伸びるようなそんな気持ちで、時々自分に言い聞かせています。

◆カリタス学園での学びから親善大使のお役目に

カリタス学園で学んだ小学生と中学生の話をします。私は小さい時からとても音楽が好きでしたので、小学校5年生の時に演劇クラブに入りました。同級生には今カリタス中学高等学校で校長の萩原千加子さんや直木賞を受賞した乃南アサさんが同じ演劇部の仲間でした。

入部してすぐ、県のコンクールに出場することになりました。そのとき出会ったのがスパルタ教育の演劇部顧問の先生です。森鷗外の『山椒大夫（安寿と厨子王）』の演目で出場。先生の愛のある厳しさ、ご指導のもとに迎えた晴れの日は私にとって、今でもどきどきするくらい忘れえぬ経験になりました。一つの大きな目標に向かってみんなで力を合わせるという連帯感、達成感を感じました。先生方や家族、お友達が観に来てくれて「すごく面白かったよ。よく頑張ったね。」とほめてもらったことも一つの大きな成功体験となりました。そのときに「将来はお芝居する人になれたらいいな。」と思いました。本気で全力で教えてくださる顧問の先生に出会わなければそのように思わなかったと思います。

小学生でも「ああ、この大人は本気で自分のためを思って言ってくれているな。」と、わかります。皆さんも忙しくて大変なことも多いと思いますが「今忙しいからあとでね。」とかなるべく子どもの納得ができるようなものの言い方ができたらいいなと息子を育てる中에서도思いました。

私が中学生のときに、カリタス中学校は授業後に有志の奉仕活動がありました。私はその活動に何度か参加をし、学校の近くの川崎市にある高齢者施設を訪ねました。中学生だから何が出来るわけではないのですが、例えば施設のエントランス、ロビーのお掃除とか高齢者とおしゃべりをしました。何回か行きますと、入所している方が楽しみに待っていてくださるようになったのです。中学生で何もでき

ないと思っていた自分でも、役に立つことがあると学びました。

親善大使のお役目の依頼をいただいたのが1998年でした。突然ニューヨーク本部の国連開発計画の方から、「親善大使になっていただけませんか」と依頼を受けました。国連の親善大使というユニセフの黒柳徹子さんやオードリー・ヘップバーンさんなど社会的地位を極められた方が、社会への恩返しとして務める名誉だと思っていました。当時30代後半でちょっと若すぎるのではと思いました。

でも当時の総裁から、紺野さんから若い人達に国際協力の大切さを伝えてほしいと言われまして、何かお役に立てればということで、中学生の時の活動を思い出して、お引き受けしました。そういう意味で私学で学ぶということは、多様な経験をする事ができて、私はとても素晴らしいことと思いました。

◆子どもを育てる中で

私事で恐縮ですが、息子の場合には地域の友達が多いと思います、公立小学校に行かせるつもりだったのですが、小学校から神奈川私学にお世話になりました。

小学校1年生の時に担任の先生が、個人面談で、「お母さん、本人が全くやる気ないのに、親がお尻たたいて、どんどん水をやっても根が腐るだけです！大切なのは見守って本人がやる気出したなと思ったときに水、肥料をどんどんあげてください。」とおっしゃってください、すごく気が軽くなりました。「そうか、本人がやる気になるまで待てばいいんだ。」と。小中高と待ちましたが、うちの子はやる気ゼロ！本当に！それが高3の体育祭の後、やっと目の色が変わってきました。男子って遅いですね。早い子もいますが高3の6月からです。

ついに肥料をやる時が来たと思います。息子だけではなく周りの男子も「え！あなた達やる気出したの？」全員やっとなりました。あれにはビックリしましたね。「やる気出せばできるん



じゃない。今までゲームばかりやっちゃって。」どうなるかと思いましたが…。

私学は学校によっても校風が違っていると思いますが、息子が通った高校はアットホームな感じ。私の言うことは全く聞きませんが、先生の言うことはよく聞いて本当にお世話になってよかったなと心から感謝しています。

特に教育方針はありませんが、モットーにしていたことが二つあります。ひとつは「ゆつくり大人になってほしいな。」と思いました。そこで家族の時間、その時にしかできないこと、今しかできないことを大切にしてほしいと思いました。勉強も大切ですが、小中高のときしかできないことは必ずあるわけです。勉強も大事だけれども五感をフルに活動させて、いろいろな経験をさせる。家の中だけではなく、いろいろなところに出かけて行って体験することが大事だと思っていました。

もうひとつは、中学生ではあまり口をきかなくなり、あまりうるさく言っても反発するだけですので、とりあえずご飯だけは食べさせておこうと気を付けました。とにかく中学、高校と何もしゃべらない。反発する。ただお腹はすくんですよ。「ご飯よ！」という不機嫌な顔をして「ああ！」と言いながら、食卓について、ご飯をいっぱい炊いて、ボリュームあるものをいっぱい出してやると会話はないうけれどパクパク食べました。思春期は「ご飯で釣る大作戦」ということで、何とか卒業して大学へも入れました。

神奈川私学に小学校から高校まで通わせてよかったと思うところは、連帯感があるので学校が子ども達にとつてなつかしい場所、第二の故郷になるということです。学校が子どものよりどころになれると思います。やはり家庭だけではどうしても対応しきれない子ども達の心の部分も、私立の学校で第三者の立場で先生方や職員の皆さん、そして同級生や先輩、後輩が何か助けになってくれると思います。また、そういう場所ではないかなと思います。

◆女優として特に印象に残った言葉の紹介

○私のデビュー作『黄金のパートナー』から
若き日の三浦友和さんと共演。藤竜也さんも一緒に演じた。右も左もわからない私に藤竜也さんは今でも

忘れない、とてもいいアドバイスをしてくださいました。それが「紺野君！俳優というのは特別扱いされる職業なんだよ！例えば僕が長い行列があるところに、フツと行ったら知らない女の人が、『藤竜也さん、私の前に入ってください。』横入りさせてもらえようそんなことがあるんだ。でもね、紺野君！絶対そこで入ってはいけないよ。『いや、僕は今来ただから一番後ろに並びます。』とちゃんといても、どんな時でも言えるような、そういった女優にならないさいよ。』つまり「チャホヤされて調子に乗ってはいけませんよ。」ということを教えてくださって、とても大事にしている言葉です。

○NHKの朝ドラ『虹を織る』から

山口県萩市出身の女の子が宝塚歌劇にあこがれて、タカラジェンヌになるというストーリーでした。この時に主人公が、結局宝塚のスターになれず、退団するシーンで言った台詞が心に残っています。その台詞は「一つの終わりは終わりではない。新しい始まりなんだ！」という台詞です。とても前向きになれるいい台詞だと思います。

最近、息子が大学を卒業して、就職して家を出ることになりましたが、安心とさみしさがあるんですね。そのような時に「一つのことの終わりは終わりではない。新しい始まりだ！」の台詞を思い出して、今まで家族のため、愛犬のために尽くしてきたけれども、これからは自分の時間をもっと楽しみたいと思っ

○東宝の正月映画、大林宣彦監督の『姉妹坂』から

20代半ばに出演しました。浅野温子さんと沢口靖子さん、そして富田靖子さんという4人の姉妹の長女の役でした。ちょうどこの頃、週刊誌で騒がれていた時期だったのです。もともと好きで始めた仕事なのに、初めてそのように週刊誌に載って、家族、友達とか本当に信頼している人に迷惑をかけてしまうことがあるんだと、とても落ち込んで



いた時期でした。京都を舞台にした作品で、京都の「哲学の道」で撮影をしていました。ロケをしている最中に、パッと見たら西田幾多郎の言葉が書かれた石碑があり、「人は人 吾は吾なり」とにかくに 吾行く道を 吾は行くなり」と書いてありました。なるほど！深く感じ入ったわけです。社会の中で、あることないこと、いろいろなことを言う人はいるけれど、自分は自分の信じた道を、自分を大切にしてくれる人を信頼し、進んでいけばいいんだと深く思いました。

○『女キヤスター物語』（林真理子さん原作の「幕は下りたのだろうか」から

私はニュースキヤスターの役を演じました。このドラマのとは、ある民放の女性キヤスターのはしり、二人のライバルの女性がいました。その姿をフィクションとしてドラマ化したものです。

私の役はメインのキヤスター、男性問題で失脚するという役で、キヤスター役を降ろされて、失意のどん底にいるときに、言う台詞があります。『花の咲かない冬の日には下へ下へと根を伸ばせ』です。人間誰しもいい時も悪い時もある。何をやってもついていないと思うとき、あー今は根っこを強くする、根っこに養分を蓄える時期なんだと思えば、何となく気持ちが前向きになってきます。出典はわからなかったのですが、オリンピックで金メダルを獲ったマラソンのQちゃん、高橋尚子さんがとても大事にしていた言葉だと聞きました。

◆親善大使としての取組、そして印象に残った言葉の紹介

国連開発計画(UNDP: United Nations Development Programme)の一番大きな目的は、世界中の貧困の撲滅です。一つの国が主に途上国が国として他の国々、国連機関などに援助を受けずに、国として自立するための総合的なあらゆる援助を行っている国連で一番大きな開発援助の機関です。2030年までのSDGsの達成も国連の中でUNDPが、一番の旗振り役となって推進しています。SDGsは世界中の国の元首はもちろん、国連職員、働く女性達の集まりや、途上国の方、そして子ども達、いろいろな立場の人、代表が集まって決めた17の目標、そしてこの17の目標の中に細かい目標があって、全部で169のター

ゲットがあります。

この間、私は子ども達に向けて話す機会で、「SDGs」は何？と聞かれたときに、一言でいうと「SDGsは愛情だ」と答えました。「思いやり」といつてもいいと思います。

自分達だけがよければいい、自分達の国や地域だけがよければいいのではなく、どこかの国で苦しみ悲しんでいる人達がいる。非常に厳しい状況に置かれている人達がいて、必ず紛争が起こりますし、ただで格差は絶対になくならないかもしれない。今生きている私達が圧倒的な格差を少しでも縮める努力をしない限り、少し大げさかもしれませんが、平和は訪れないと私は思っています。そのために何をすればいいかというと、自分にとつての大切な時間がある中の、ほんの少しでも誰かのために使うことです。

親善大使だから「こうあらねばならぬ。」という時期もありました。それはかなりプレッシャーが大きく、精神的にしんどくなる。私も家族が大事、自分も大事、デパ地下大好き、おしゃれもしたいし、自分のための時間を大事にしたい。でも限られた人生の時間の一部を、みんなのために使う。そのような仲間を増やす活動にしたいと思っています。

親善大使は12人います。皇室の方、スポーツ選手、俳優、シェフ、皆さんそれぞれの立場でできることを、無理せずに仲間を増やしていく。そういったことが大切ではないかと思っています。

親善大使は何をしているかというと、一言でいうと宣伝係です。UNDPの活動を一人でも多くの方に知っていただくということで、小学校で話をするところもありますし、時間が合えばいろいろなところでお話しさせていただいています。また、数年に一度UNDPが活動している途上国に行って、その時に見たことや、感じたことを自分の言葉で伝える活動をしています。もう24年目になりますが、今までにカ



ンボジアに二回、パレスチナ、ブータン、アフリカ、ガーナ、タンザニア、ケニア、東チモール、パキスタン、東日本の被災地にも行きました。たくさんの方に会って印象に残る話や言葉があります。

中学生や高校生に対しては「人間は自分の生まれてくる場所を選べない。たまたま生まれた国が日本だった。カンボジアだった。アフリカのどこかの国だった。選べないわけです。生まれた国や地域が違うだけで、想像を絶するほど格差があります。途上国では貧困地域で生まれたというだけで、初等教育さえ受けられない人が多くいます。このコロナ禍の中でも、人数がどんどん増え続けているかもしれません。最近の調査ですと、世界で6,000万人近くの子ども達が初等教育を受けられないという統計もあります。その時に日本の子ども達に、学生達に何を感じてほしいかというと、日本に生まれて、しかも私立の学校に通える。先生方も学校の施設もとても恵まれている環境で勉強することができ。それは学校へ行きたいと思っても、経済的な理由でいけない。宗教的な理由でいけない。紛争中で近くに学校がない。貧しくて小学校のうちから働かなければならない。そういう子ども達の分まで勉強する責任があると思うんです。」と話します。中学生、高校生にその話をすると、「誰だよ、このおばさん！」なんて感じて聞いていた生徒も、真面目に聞いてくれます。

アフリカのガーナのマンヤ・クロボ地区というHIV・エイズで親を亡くした孤児の非常に多い地区を訪ねました。クイーンマザーというのは、地域の経済的に比較的恵まれているお母さん達の集まりです。そのクイーンマザーの皆さんが、正装で迎えてくださいました。この時彼女達の行動を聞いてびっくりしたんですね。それは何かというとエイズで親を亡くした子ども達が揃っている現実には、お母さん達が話し合って、「それならば、私達の家庭で一軒あたり6名の子どもの里親になりましょう。」というようにしたそうです。ただでさえ自分の子どもが6、7人いるのに、あと6人子ども達を引き取って、自分の子どもと同じように育てている。本当に

頭の下がる思いをしました。「どうしてそのようなことできるんですか。」と尋ねたら、ガーナの一番大きい民族は、情けは人のためならず。困ったときはお互い様。そういう精神が昔からあるそうです。村の子ども達は、自分のことも達と一緒にだからみんな、地域で育てましょう。」という取り組みがなされていました。

一番最近訪問したのはケニアです。日本の企業によって水のろ過施設ができて、子ども達が水汲みになくなってよくなりました。ケニアは舗装道路が少なく、日本のNGOが道路を修繕するプロジェクトを進めていました。この時一人の若者が「紺野さん！僕は貧しいスラムの出身です。聞いてください。日本のトヨタの車を2台買ったんですよ。」「すごいじゃない！どうして？」といったら、道路を直すという技術を身に付けて、家の近所の道路を直したんです。地域の人達から「道路がきれいになって、雨が降っても学校に行ったり、病院に行ったり、買い物ができるようになった。」とたいへん感謝されたのがうれしくて、それで仕事に一生懸命精を出して、「道づくり」をする会社を独立して、トヨタ車を2台買った」と。若い時に周りの人に評価されて褒められることは、すごく大事なことでないと思いません。

東日本大震災の被災地に何度か行きました。福島県は原発被害があった大熊町、その大熊町の子ども達は会津若松市に学校が移ったんです。私は2012年に大熊町の6年生の子ども達に言葉の授業をするため何回か行きました。その時に6年生に「みんなが今まで一番心に残った言葉は何？」ときいたら「はい！」と男の子が手を上げて「僕はお母さんの言った『おかえりなさい』という言葉です」と言いました。「どうして？」と尋ねたら、2011年3月11日大震災が起こったとき、その男の子は学校から家に帰る途中だった。地割れが起きたり電柱が倒れたり、ものすごく怖い思いをしたけれど、やっと家



に着いて「ただいま！」と言ったら、お母さんがいつものように「おかえりなさい！」と言ってくれて、その言葉が本当にうれしくて、安心したんです。『だから僕にとって今まで一番心に残る言葉はお母さんの『おかえりなさい』です。』日常の何気ない言葉のやり取りはとても大事です。いつ何が起るかわからない。だから大切な人とちゃんとあいさつして、気持ちを伝えておくことはとても大切なんだなと強く思いました。

私は自分らしくできることとして朗読活動が続いています。『星は見ている』という広島県原爆で全滅した広島一中1年生父母の手記集です。表題にもなっている『星は見ている』、子どもを亡くしたお母さんの手記を、これからずっと読み続けていきたと思っています。

今日は最後に皆さんと谷川俊太郎さんの「生きる」を朗読してみたいと思います。

（会場参加者と群読）

ありがとうございます。今日はお付き合いをいただきまして本当にありがとうございました。また、同じ私立の保護者としてご縁がありましてうれしく思います。

紺野 美沙子様の講演を聞いて

会計理事 吉成 みち子

（横須賀学院中学校・高等学校 教育賛助会会長）



当日、会場入りされた紺野美沙子さんを、スタッフとして控室でお迎えし、進行の打合せをさせていただきました。紺野さんは、日頃テレビで拝見しているイメージそのままの清楚で実直なお人柄で、その後の講演内容も大いに引き込まれるものがありました。

特に印象に残ったことは、紺野さんが保護者としてご子息を私学に託されただけでなく、ご自身もまた

私学で育てられた方であるということです。私立小学校時代にクラブ活動として演劇・朗読に触れたことと、そこで長く顧問を務められてきた先生の厳しくも愛に満ちた指導が、紺野さんの人格の涵養に大きな影響を与えたのであろうことが、ひしひしと伝わってきました。

聴きながら、我が子を私学にお預けすることができて良かったの思いも、改めて湧いてまいりました。私学保護者のための研修会として、まさに相応しい講演会であったと思います。

理事 坂本 綾

（柏木学園高等学校 後援会）



朗読座主宰で俳優としても活躍されている紺野美沙子さんを講師にお迎えし、「心に響く言葉を伝えよう」の講演を聞かせていただきました。

講演では親善大使を勤められているUNDPでの活動のお話や、紺野さんご自身がいただいた言葉、書籍などから学んだ言葉、ドラマでの心に残る台詞、たくさん心に響く言葉を教えていただきました。

その中でも「今日が一番若い日」と言う言葉にはっとさせられました。明日より今日の方が若い。残された人生の中で常に今日と言う日は一番若い日なのだ。20年、30年先の私から見れば、今の私はまだまだ若く、未来があるのだと思いました。何かに挑戦することを今から初めても遅いと思ったり、年齢を気にして諦めてしまったりしていましたが、思えば人生100年代。まだまだ時間もチャンスもあるのだと気付かされました。この言葉を胸に1歩踏み出し、新しいことに挑戦してみようと思います。

講演の最後に谷川俊太郎さんの「生きる」を全員で朗読しました。「生きる」と言う言葉をこんなにたくさん口にしたのは初めてです。言葉にするとぐっと重みが増し、言葉には力があり、人の心を動かすものだと改めて感じました。

ひとつひとつのお話しがとても貴重で心に響き、大きく背中を押された講演でした。

ネットの危険からお子様を守るために保護者ができる3つのポイント

令和4年（2022年）2月4日

①自分のスマートフォンを持つ子供はどのくらいいるの？

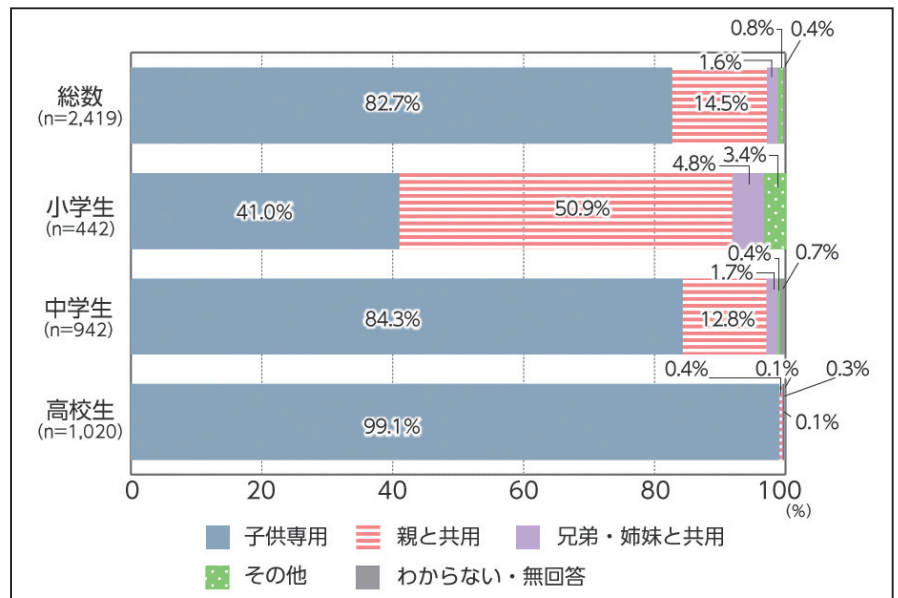
進学や進級をきっかけに、子供にスマートフォンを持たせることを検討しているご家庭は多いのではないのでしょうか。自分のスマートフォンを持つ子供の割合は年々増加しています。内閣府が行った「令和2年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」(*)によれば専用のスマートフォンを利用している割合は、小学生で41.0%、中学生で84.3%、高校生では99.1%に達しています（図1）。

※調査対象は満10歳から満17歳までの青少年（5,000人）及び左記青少年と同居する保護者（5,000人）

資料…内閣府「令和2年度 青少年のインターネット利用 環境実態調査 調査結果」

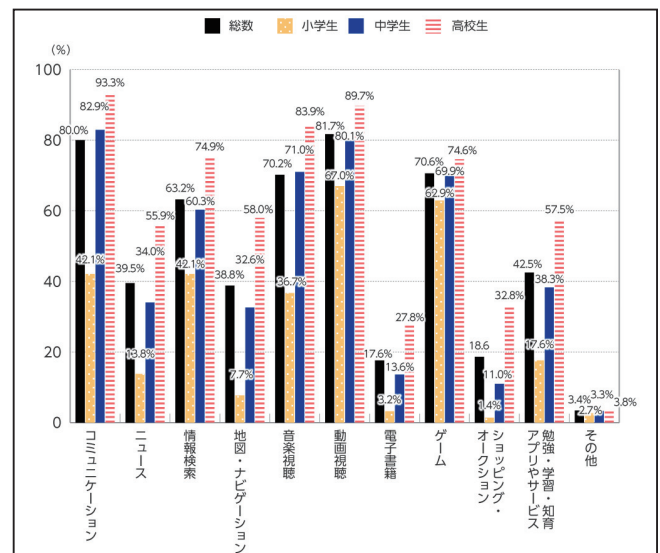


図1：青少年のスマートフォンの専有率



このように自分専用のスマートフォンを持つ子供が多くなっている中で、保護者の皆さんは、自分の子供がどのようにスマートフォン等を利用しているか、きちんと把握していますか。先ほどの調査結果によれば、青少年のインターネットの利用内容は、高校生では、コミュニケーション、動画視聴、音楽視聴が、中学生では、コミュニケーション、動画視聴、音楽視聴、小学生では、動画視聴、ゲームがそれぞれ上位を占めています（図2）。

図2：青少年のインターネット利用内容



また、1日のインターネット平均利用時間は約3時間25分で、1日3時間以上インターネットを利用する子供の割合は約5割となっています。スマートフォンでのインターネット利用は、家庭以外の場所でも行われるため、保護者の目が届きにくいのが現状です。そのため、子供がインターネット上でトラブルに遭遇したり、問題行動があったりした場合でも、保護者が把握できていない場合が少なくありません。

②子供たちのインターネット利用に潜む危険とは？

インターネット上の世界には、子供たちにとって役立つ情報がたくさんある一方で、暴力的な表現やアダルト画像といった悪影響を及ぼす不適切な情報が数多く存在します。また、メールやインターネット掲示板、SNS（ソーシャル・ネットワーク・キングダム、サービス）などのコミュニケーションサイトについても、利用方法を誤ると、自分が気付かないうちに見知らぬ人に個人情報を知られてしまうなど、様々なトラブルが生じる危険があります。

子供のスマートフォン利用に関するトラブルの例

- ◆書き込みやメールでの誹謗中傷やいじめ
SNSなどで人の悪口を書き込むなど、インターネット上での人権侵害やいじめが発生し、被害に遭った子供が不登校となるなどの事例も発生しています。
- ◆SNSなどに載せた個人情報の流出
SNSなどに安易に個人情報を記載したために、写真や名前、メールアドレスが知らないところで勝手に使われ、嫌がらせを受ける被害が発生しています。
- ◆SNSを通じて知り合った人からの誘い出しによる性的被害
最近では、出会い系サイトではなく、SNSやゲームサイトなどで知り合った人からの誘い出しを受けて、子供が性的被害を受けるケースが増えています。令和2（2020）年にSNSに起因する犯罪被害にあった子供の数は1,819人となっています。
- ◆無料ゲームサイトでの意図しない有料サービスの利用
「無料」とうたっているオンラインゲームで遊んでいる間に、アイテムが有料であることに気付かず購入してしまったため、高額な料金を請求されてしまうトラブルが、子供の間で多く発生しています。
※子供のインターネットトラブルの事例について、さらに詳しく知りたい場合は、下記のウェブサイトをご覧ください。

総務省「インターネットトラブル事例集」別ウインドウで開きます

保護者ができる3つのポイントとは？

こうしたトラブルに巻き込まれることなく、子供たちが安全に安心してインターネットを利用するために、保護者がその特徴や、様々なリスクについて理解しながら、子供を見守ることが重要です。そのためのポイントを紹介します。

ポイント1

お子様のスマートフォン等の利用状況を把握するために、ペアレンタルコントロールを活用しましょう。

ペアレンタルコントロールとは、子供のスマートフォン等の利用状況を保護者が把握したり、安全管理を行ったりする仕組みで、OS事業者、アプリ開発事業者からサービスが提供されています。例えば、子供がスマートフォン等でゲームをプレイする場合、保護者のスマートフォンで、子供の日々のプレイ状況を確認したり、プレイする時間や時間帯の調整、課金の制限等を行ったりすることができます。子供の使用状況に応じて上手く活用しましょう。

ポイント2

不適切な情報や危険な出会い等を防ぐために、フィルタリングを賢く利用しましょう

子供がスマートフォン等を利用する際には、適切な情報へのアクセスを制限する「フィルタリング」を活用しましょう。うっかり、あるいは故意に危険なサイトにアクセスしないようにコントロールしてくれる便利な機能です。それによって、出会い系サイトやアダルトサイト、暴力的な表現のあるサイトなどを、子供が閲覧できないようにします。

なお、携帯電話会社では、18歳未満の子供がスマートフォン等を利用する場合には、フィルタリングサービスについての説明や設定を行っています。子供の年齢や



使い方によりレベル設定ができ、利用したいサイト、SNS等の個別設定もできますので、上手に使って子供の安全を守りましょう。

ポイント3

家庭のルールをお子様と一緒に作り、成長とともに少しずつ見直していきましょう

実社会でやってはいけないことは、インターネット上でもやってはいけません。子供がスマートフォン等で上手にインターネットを活用できるようにするために、家庭のルールを作りましょう。ルールづくりは保護者の一方的に押し付けではなく、子供と一緒に、利用目的や利用場所・時間帯を話し合っ

それから、ルールやマナーを守る習慣を身に付けさせましょう。

スマートフォン等の利用状況については、子供と折に触れて話し合い、問題がないか確認してください。万が一、トラブルが生じたときには、子供が一人で抱え込まず、すぐに保護者に相談するように、普段から子供と話しておきましょう。

家庭のルールの具体例

名前や顔写真、学校名などは書き込まない。
友達にメールやメッセージのやり取りを強要しない。
利用する場所や時間を決める。
パスワードは親が管理する。
トラブルの時はすぐに保護者に相談する。
（取材協力…内閣府 文責…政府広報オンライン）



神奈川県私学振興大会開催 「保護者の願い」参加議員紹介

2022年11月28日（月） パシフィコ横浜にて開催
参加522名

大会決議・保護者の願い

神奈川県私学保護者会連合会

代表 庄司 由紀

（横浜富士見丘学園中学校高等学校PTA会長）



神奈川県知事黒岩祐治様をはじめ、国会並びに神奈川県議会の議員の皆様には、日頃から、私どもの子どもたちが学ぶ私立学校教育の振興発展にお力添えをいただき、心から感謝申し上げます。

さて、現在、私立学校とそこに学ぶ子どもたちを取り巻く環境は、さまざまな課題を抱えております。特にこの2年間は新型コロナウイルス感染症によって、子どもたちの学習・教育活動の変化、各家庭の経済状況の変化など今まで経験して切に望みますことは、何よりも「子どもたちが安心して学ぶことができる、充実した教育環境の整備」でございます。

もとより、わが国の将来や神奈川県の郷土発展のために、子どもたち一人ひとりが立派に成長し、社会の役割を担えるよう育てることは、私も保護者の責任でございます。一方、私立学校の保護者として何よりも第一に望みますことは、子どもたちのそれぞれが自分の能力や希望に応じて、自ら選択した学校で充実した教育が受けられることでございます。

私も保護者は、様々な学校の選択肢の中から、教育方針に賛同し子どもに良かれと考へ、私学に学ばせております。しかし、経済的にゆとりのある家庭ばかりではございません。是非とも家庭の経済状況により自由な学校選択が妨げられることのないよう、私立学校保護者への更なる学費負担の軽減、ならびに就学支援金の拡充をお願いしたいと思います。

そして同時に、これまで以上に良い教育が受けられるために、私学への経常費助成の増額を望んでおります。私立学校に学ぶ子どもたちの教育環境を整備するためには、何よりも経常費補助が増額されることが必要不可欠なことと考えております。

私立学校関係者並びに私も保護者は、新型コロナウイルス感染症の対応によって神奈川県の財政が苦しいことは十分

に理解しておりますが、私立学校に学ぶ子どもたちの教育環境の一層の改善・充実と私立学校保護者の学費負担軽減のために、次の三点について速やかな実現を望みます。

- 一つ 私立中学校・高等学校・中等教育学校の経常費補助に対する補助率2分の1の継続と、補助単価の充実・増額の軽減
- 一つ 保護者負担教育費の公立と私立学校間の格差是正と負担の軽減
- 一つ 私立高等学校等の全施設の耐震化に向けた国公立学校と同等の財政支援の拡充と実施

以上でございます。

参加議員紹介

国会議員・県会議員出席者（本人または代理）

（1）国会議員（衆議院議員） 12名

氏名	党派	選挙区	備考
菅 義偉	自由民主党	神奈川県2区	
中西 健治	自由民主党	神奈川県3区	
山本 朋広	自由民主党	神奈川県4区	
坂井 学	自由民主党	神奈川県5区	
古川 直季	自由民主党	神奈川県6区	
鈴木 馨祐	自由民主党	神奈川県7区	
中山 展宏	自由民主党	神奈川県8区	
田中 和徳	自由民主党	神奈川県9区	
小泉 進次郎	自由民主党	神奈川県10区	
甘利 明	自由民主党	神奈川県11区	
義家 弘介	自由民主党	神奈川県12区	
山際 大志郎	自由民主党	神奈川県13区	

（2）国会議員（参議院議員） 5名

氏名	党派	選挙区	備考
島村 大	自由民主党	神奈川県選挙区	
三原 じゅん子	自由民主党	神奈川県選挙区	
浅尾 慶一郎	自由民主党	神奈川県選挙区	
佐々木 さやか	自由民主党	神奈川県選挙区	
三浦 信祐	自由民主党	神奈川県選挙区	

（3）県会議員 26名

氏名	党派	選挙区	備考
川崎 修平	自由民主党	横浜市鶴見区	
梅沢 裕之	自由民主党	横浜市神奈川区	
加藤 元弥	自由民主党	横浜市中区	
原 聡祐	自由民主党	横浜市中区	
新堀 史明	自由民主党	横浜市中区	
桐生 秀昭	自由民主党	横浜市中区	
磯本 桂太郎	自由民主党	横浜市中区	
新井 絹世	自由民主党	横浜市中区	
大村 悠	自由民主党	横浜市中区	
嶋村 公	自由民主党	横浜市中区	
武田 翔	自由民主党	横浜市中区	
小島 健一	自由民主党	横浜市中区	
敷田 博昭	自由民主党	横浜市中区	
田中 信次	自由民主党	横浜市中区	
田中 徳一郎	自由民主党	横浜市中区	
小川 久仁子	自由民主党	横浜市中区	
持田 文男	自由民主党	横浜市中区	
竹内 英明	自由民主党	横浜市中区	
森 正明	自由民主党	横浜市中区	
市川 和広	自由民主党	横浜市中区	
山本 哲	自由民主党	横浜市中区	
小野寺 慎一郎	自由民主党	横浜市中区	
西村 くにこ	自由民主党	横浜市中区	
藤井 深介	自由民主党	横浜市中区	
谷口 和史	自由民主党	横浜市中区	
楠 梨恵子	自由民主党	横浜市中区	

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から学校からの参加者を半数にして開催しました。主催者挨拶と来賓挨拶は「神奈川私学保連NEWS」105号で紹介する予定です。

神奈川県私立中学高等学校案内 ホームページ <https://www.phsk.or.jp>
● 内容 学校情報・入試情報・学費補助

■ 発行者 『神奈川県私学保護者会連合会』 神奈川県私学協会内
〒221-0833 横浜市神奈川区高島台7番地5 ☎045(221)-1900
印刷所 『有限会社イソノ』
〒235-0016 横浜市磯子区磯子3-10-4 ☎045(766)2549